



だより



R8.7.7 Vol.14

悩む…

ある公共施設で軽く運動し、更衣室で着替えていると、スクールが終わる時間だったのか、子供たちも入ってきました。まあ賑やかなこと…。奇声に近い声も出ていたので、「こらこら！」と声をかけようと思ったのですが、ここまで来て先生風吹かすのも何だかなとの思い、「まあいっか…」と流しました。叱ってくれる近所のおっちゃんがいなくなって久しいですね。怒られたことを親に言っても、なんなら、更に怒られるので黙っていたものです…。

そんなおっちゃんも必要だと思うのですが、今は不審者扱いされたり、逆ギレされたりの方が多いかも…。子供が着替えて出ていくとき、照明のスイッチで遊んでいたもので、さすがに「おい！」って顔で見ると、やめて逃げていきました。

(悩みながらの行動でしたが、そのくらいはね…。)

歳をとったと思うとき

- 風呂上がりに、「あれ？今日まだ風呂入ってなかったっけ？」と考えていた時。(焦りました…。)
- 校長室に飛び交う蚊を一向に叩けない時。
- 「あ！動かないと！」と意識して動いている時。
- 顔は思い浮かぶのに、名前が出てこない時
- ラジオ体操している自分が映ったガラスを見て、おじいちゃんを感じた時。
- カレーライス一杯でおなかいっぱいになる時。
- 「万一、職失ったら、食べていけるくらいの給料は出すけん、働き来なはいや！」と教え子に優しくされた時。
- イケオジ(もとい！イケ爺)になりたいと願う時。
- 今日が一番若いと言い聞かせる時。
- 何もないところでつまずく時。
- こんなことを考えている自分。



四方山話松蔭 ver. 其の十四(デジタル派？アナログ派？教頭との激論！)

先日の校報「まつかげ」の巻頭言で教頭が「購買を通しての判断力や実践力の育成」を話題にしていました。大切にしたい視点です。その文脈で「コンビニとかでバーコード決済は使わんの？」と教頭に尋ねたところ、「はい！僕は現金派です！」「ええええええ！？お財布からお金出すの？」「はい！」教頭が一瞬セピア色に見えました。(笑)デジタルを満喫している私が校長室だよりでその危険性を説くよりも、教頭の方が説得力は100倍です。

話の中で「一か月分の小遣いを初めにおろして手元においていた方が分かりやすいやないですか！」との教頭の言葉。その中にデジタルとアナログの本質的な違いが見え隠れしています。時計に例えるとアナログ時計は量を表しますが、デジタル時計はその瞬間の数値を表しますよね。手元に現金を置いていたら、残りの量が実感を持って確認できますが、〇〇payのような決済だとスマホ上の数値だけです。「月初めにそのアプリに自分の小遣いをチャージしておけば結局同じことでは？」とお考えの皆さん！さすがデジタルネイティブ！私はアナログ人間なので、(デジタル決済を利用しつつも、)残りこれだけという量感は大切したい感覚だと思っています。さらに教頭曰く「手元にお金が無くなってくると自然に節約しますよね？」もうぜひアナログ党を結成してほしいです!!! 下世話な話かもしれませんが、給料が現金支給だった頃、お金の重みを体感していました。管理職から「給料日はまっすぐ家に帰りなさい！」なんて冗談半分の、そんな指導もありました。

うまい言葉が見つかりませんが、量感を通して、そのありがたみや自制心のような感覚が育っていた気がします。デジタル書籍を利用していた時期もありましたが、やはり紙の文庫本に戻ってきました。デジタルが進んだ今でも、ページをめくる紙の感触や手に触れる量感が人の感覚をそっと整えてくれている気がします。

----- 切り取り線 -----

便りの感想や学校への要望等ありましたら、お聞かせください。今後の学校経営・運営に役立てていきたいと思います。